

第十六章 アメリカ視察から学ぶ

(昭和四十一年六月十二日より七月六日まで二十五日間)

1 アメリカの開発から何を学んだか

昭和四十一年六月十二日(日)。愛知用水の主なる工事も一段落ついて、久野さんは長年苦勞を共にした私と一緒に、かねてから考えていたアメリカ一巡の經濟視察に出かけた。

通訳に会社(三祐コンサルタンツ)の大垣内を伴い羽田空港を安積得也さんと会社の幹部数名に見送られて、ノースウエスト航空で出発した。北極廻りであったので、いつまでも日が沈まず、太陽が左手にあつて、不思議に思えた。経費は久野庄太郎の老後の農場と考えて私たちが手に入れ用意していた丸池山の土地を、名鉄の土川社長の懇請でついに手放した金の一部をあてたので、心配はなかった。

二人は次の目的をもっており、希望に燃えていた。

- ① 愛知用水は、世界銀行の融資、技術援助によつて六年間の短期間で見事に完成したので、世銀総裁ブラックスにお礼を言いたい。
- ② 愛知用水は農業のみでなく、地域開発、とくに知多西海岸を埋め立て、工業コンビナートを誘致して工業用水に使用し、その背後地の開発をどのようにすべきか、アメリカ

の例を見たい。

一口に工業コンビナートの背後地は、臨海工業地帯の造成面積の三倍の土地が必要と言われているが、どのようにすればよいか。

③ 愛知用水事業完成後、農産物が過剰生産となり、農家が豊作貧乏になる心配はないか。その場合は、冷凍貯蔵して、はぞかいき端境期に出荷するコールドシステムを見るべきだと農林省農産課の加藤泰丸氏のすすめでカンザシシティのコールドチェーンを見る。

④ アメリカの畑地灌漑の実際を見るべきだ、とくにフーバーダム、インペリアル平原の灌漑を見るべきだ。

⑤ アメリカのレジャー施設も見る。マイアミ。ラスベガスはフーバーダムと組み合わせたコースを取ればよい。

とくに世銀総裁に会うには吉田元総理の紹介状をもらって行ったほうがよいというので、大磯に行って話したら、「それはよいことだ。公団が金をくれたか」と言われたので「全部自費です」と言ったら、「それは大変だ。アメリカの大使に手紙を書いてやろう」と世銀総裁ブラック氏と武内駐米大使に紹介状を書いて下さった。

六月十三日（月） 早朝、シアトル空港に到着、入国手続きその他荷物の取り扱いなど、初めてのことで、手間取った。十時頃のローカル便にてサンフランシスコに到着。一応、ヒルトンホテルにチェックインして、海岸近くの食堂に入り昼食。バイキング方式でちよつととまどった（日本にはまだなかった）。ゴールデンゲイト橋見学、日本庭園、何を見てもスケールが大きく、驚いた。夕方まで市内見学。

六月十四日（火） サンフランシスコ市内見学、坂の多い町であった。

六月十五日（水） 早朝出発。ロッキー山脈のヨセミテ森林公園にバスツアー。センベルセコイアの大森林、往復の途中、農家は散居で各家にファームポンド灌漑施設が完備しているようだ。日曜日でもないのに、自然を満喫する人が多いこと。リスがわがもの顔に飛び回っている光景は、日本では見られない。夕方はホテルで夕食。

六月十六日（木） 早朝出発。一路ニューヨーク。機上より見る農家は絵のように整っている。灌漑施設のない農家は見られない。大陸を横断。昼食は機内食、ポリユームの多いことに驚く。夕方、セントラルパーク出口のヒルトンホテルにチェックイン。夕食はネクタイを付けていなければ食堂に入れない。夕食後、セントラルパークを散歩してみても広さに驚く。六月十七日（金） ニューヨークは自分達だけで市内見学。自由の女神、エンパイアステートビル、地下鉄。朝から自由に歩き回った。ニューヨーク島の地盤は粘板岩の一枚岩と聞く。高層建築が可能なわけだ。午後、中央公園を抜け黒人街のスラム街に出た。ちよつと気味が悪く、早く引き揚げた。

六月十八日（土） 前からの約束で、安積得也さんの次男発也さんが市内から郊外のロングアイランドの方まで案内して下さった。発也さんは国連勤務であるので、国連の内部、ウォール街など、普通では見られない所をご案内下さった。

六月十九日（日） 本日は安積得也さんの長男仰也さん（ニューヨーク大学助教授）が奥さん（アメリカ人）、長男（三歳くらい）とともに、ニューヨークの北西、ハドソン河の渓谷、ペアーマウンテン公園にピクニックに案内下さること、早朝に朝食を済ませて、二台の車に分乗。ハドソン河を渡り、上流へ上流へと進んだ。若いアメリカ人の奥さんがいろいろ気を

つかってサービスして下さるのに恐縮した。奥さん手製の昼食をいただいて楽しい一日となった。

六月二十日（月） 早朝、大使館挨拶のためにニューヨークよりワシントンへ。十二時、ワシントン日本大使館に向く。吉田茂さんの紹介状を渡す。武内大使は不在にて、沢本、赤津一等書記官に会う。沢本書記官は久野さんと旧知の間柄。ブラックス元世銀総裁は現在、ニューヨークのチェス・マンハッタン銀行の会長であるので、ニューヨークの同銀行の会長室で六月二十二日（水）十一時に会う約束を取ってくれた。まずこれでよし、と沢本氏の案内でワシントンのアーリントン墓地のケネディの墓、リンカーン記念堂、日本から来た桜等を見せてくれ、自宅で夕食会を催して下さった。感謝のほかなし。

ブラックス元世銀総裁と会う

六月二十一日（火） ブラックス元世銀総裁に会う約束があるので、急遽反転してニューヨークに帰る。

六月二十二日（水） ウォール街のチェス・マンハッタン銀行の会長室に十一時少し前に到着。手土産に柴山青風作の八〇センチ級の施無畏の観音像を絵の木箱に入れて持ってきた。施無畏の観音像の由来については、会社の伊藤秀の見事な英訳をつけて入れてある。それと吉田元総理の紹介状を持ってきたので秘書に渡した。

秘書が、「ちよつと待ってもらうから、うちの会長の趣味のコレクションを見て下さい」と案内してくれた。部屋から廊下一杯に陳列棚があり、仏像仏画で一杯である。私達も知らなかったが、彼の趣味に合った仏像を持ってきてよかつたなと思ひながら拝見した。

ほどなく秘書が会長室に案内してくれた。立派な机、椅子があつて、その向こうに大きな男が立つて待っていた。そして「よく来てくれた」と一人一人握手を求めてきた。

久野さんから吉田元総理の紹介状と土産物の仏像の箱を手渡した。吉田元総理の紹介状を黙読して、「吉田元総理は、よく知っております」と言つて、再度、一人一人大きな手で握手を求めてきた。

その大きな手で、不器用に土産物の箱の包み紙を破つて、中から観音像を取り出して、「オー、ブッダー!」と言つて机の上に立て、「サンキュー」と、さも嬉しそうに眺めて、こちらを向いて、「世界銀行は世界中各国、各地でたくさんの開発援助をしてきたが、地元の農民がお礼に来てくれたのは初めてだ。そして、愛知用水計画は日本経済復興のために役立つていることも世界一だ。それが証拠には、世銀が融資した当時は一ドルが三百六十円であつたものが、今や二百円だ。まだまだ円高が続くだろう」

「また、あなた方の技術者も農民も新しい技術を身につけた。これからはわれわれと一緒に、開発途上国の開発に協力してもらいたい」と言い、一息ついて、「近いうちに日本に行く。その時、愛知用水事業をみせてもらおう」と言つて別れた。まことにすつきりした再会であつた。

六月二十二日の元世銀総裁ブラックスとの会見によつて、渡米目的の一つは達した。あとは、近く彼が来日して愛知用水の出来映えを見てくれればよい。次の目標は、伊勢湾に誘致を考えている臨海工業コンビナートの中心をなす知多側と伊勢側の架橋を考えた時、災害やクリアランスの問題で支障を起こしやすい架橋のウィークを防ぐために、橋と沈埋道路を組み合わせた沈埋工法の研究である。

ノーフォーク十二時三十分着。そこから認可を得たタクシーで最初の人工島の料金徴収場まで行き、バスを待つて乗る以外に方法がない。バスも不定期で、乗ったら帰りの時間はわからない。そのうちに美しい中年の婦人が二人やって来た。手まねで話しているうちにバスが来た。料金所を出て海岸は白砂青松の渚を通り、横断は二八キロ、まず二車線の橋梁、両側に水銀灯がついている。乗客は少ない。橋梁のクリアランスは八メートル。まず第一人工島から海底に入る。一七四〇メートル、第二人工島を出て橋。

第三人工島に至り、次は海底に潜る。一七四〇メートル。第四人工島に出て橋梁を行く。トンネル幅九・五メートル、橋も同じ幅、海上は濃霧にて往復の自動車はヘッドライトをつけて行く。バスは六〇人乗り、速度五〇マイル。約二五分で対岸の料金徴収所につく。ここで下車して一時間待つて、次は逆方向ノーフォーク行きのバスに乗り、二五分、事前調査がよくなくて心配したが、最終便の飛行機に乗り得てワシントンに到着。夕方、ワシントン、ヒルトンホテルにチェックイン。無計画で危ない一日であった。

2 大規模な冷熱利用に驚く

カンザスのコールドチェーン

六月二十四日(金) 四泊したホテルに別れて、十時マイアミ行きに搭乗する。好天で下界がよく見える。十時二十分、マイアミ着。この付近は広い湿地帯で、湿地帯を改良して飛行場が建設されている。ここからキューバ、南米への便が出ている。マイアミ・エントランスホテルにチェックイン。ホテルは壮大で、プール、アイススケート場、大小食堂、バー、

遊技場があり、世界一と自称している。知多半島にもこんな飛行場ができるのかと、心がふくらんだ。

長寿には お金持より 仕事もち

大きい気持ち 若い気持ち (庄太郎)

午後、市内バス観光。

次はT・V・Aであるが、流域が広くてまとまりがなく、日数を要するとのことで資料をもらって、次の日はカンザスのコールドチェーンを見る予定に変更する。

六月二十五日(土) 午後一時発、五時カンザスに到着。カンザスは広いアメリカの中央、高原地帯にあり、地下は固い粘板岩で、これを掘り出して採石し、アメリカの道路・鉄道に最適な建設資材として利用した。その掘った跡の穴倉を冷凍倉庫にしている。列車も自動車も温度別の保冷倉庫にそのまま入って荷役できる設備になっている。これをコールドチェーンと言っている。この設備を見に来た。

六月二十六日(日) 加藤泰丸氏の紹介してくれた冷蔵庫の見学は、明二十七日(月)であるので、今日一日ホテルでぼんやりしていてもしょうがない。とにかく、市役所に行つて、どういう部門があるか見てこようということになって、十時頃、ガランとした市役所の部門別の表板の前で三人で、農務課はあるか、コールドチェーンはどこで取り扱っているかと話している、一人のアメリカ人が近づいてきて、「日本人だと思うが、何をしているか」と尋ねた。

そこで大垣内が「私たちは日本から来たが、この市でコールドチェーンのシステムの研究をしたいと思つて来た。あいにく今日は日曜日で、紹介者との約束は明日であるので、市役

所の担当はどこか見ているところだ」と言うと、彼は「俺はバーケという者で、コールドチエーンの仕事の社長をしている。日本にも、マレーシアにも行ったことがあり、この市長とも友人である。今日はステーションホールで経済人の昼食会があるので、市役所にちよつと用事があり、立ち寄ったところだ。どうだ、俺のゲストとして昼食会に出ないか？」と言った。

こちらにも、渡りに舟といったところで、久野さんが、「会費は出すからぜひ参加させてくれ」と言うと、彼も嬉しそうな顔をして、「OK OK 俺について来い」と言つて市役所の中を市長室も案内して、展望台からカンザスの町の様子を説明して、「ここはアメリカの中心だ。鉄道も道路も皆ここから出ている。あの向こうの台地の下は皆トンネルが冷蔵庫になつており、ここに貯えられている。昼食後、俺の会社の倉庫を案内するから来るか」と言つた。これは面白い、ぜひ見せてくれ」と言うと、「OK OK、俺にまかせておけ」と言つて、鉢の大きな頭の下顔が嬉しそうに笑つていた。

そして、駐車場から自動車でステーションホールに案内してくれた。会合は十一時から始まり、バーケ氏は私たちを紹介して、「日本からカンザスのコールドチエーンを見に来てくれた。今日は私のゲストとして参加してもよろしいか」と賛成を求め、大賛成を受けた。そして、今日日本で世界銀行の融資を受けてアメリカのT・V・Aをまねて愛知用水という仕事をやっており、完成が近づいたので、これから増産されたものを貯蔵するコールドシステムの勉強に来ているんだ」と言つたら大拍手。

昼食会を終わつて、彼は自分の車で、「これから俺の会社の冷蔵庫を見せるが、行くか」と言うから、よろこんでと答えるとドンドン田舎の方へ行く。途中、空模様がおかしくなり、

雷とともに大きな雹ひょうが降って来た。パーケ氏は恐れることなくどんどん田舎道を進んだ。途中丘の上は牧場となっており、ショートホーン（肉牛）の牧場の中の木陰や牛舎に避難する牛の大群を見ながら進んで行った。彼の冷蔵庫に着いた頃には雷雲も去って、今の嵐を忘れたような日になった。

付近一帯は粘板岩の台地で、上は高原となり、牧場、下はトンネルと冷蔵庫、品物によって冷凍温度が決まっており、一つのむだもなくシステム化されたコールドチェーンとなっている。思わぬ案内者によって、それをつぶさに見ることができ、楽しかった。そして、家用車でホテルまで送ってくれた。

途中、「今晩はカンザスの野球場でカンザスとリッチモンドのプロ野球の試合がある。われわれは子供達と応援に行くが、見に行かないか」と誘われた。久野さんは野球を知らないが、浜島と大垣内は大のファンであると言ったら、「ホテルで夕食を六時までにとって待っておれ。迎えに来てやる」とのこと。まったくアメリカ人の親切さの底の知れないのに甘えて約束した。約束通り六時に迎えに来てくれた。息子のジョン君も張り切ってカンザスを応援してくれと言う。明るい十四、五歳の少年であった。球場はカラフルなナイター球場、日本国内ではナイターはまだ始まっていない時で本当に楽しかった。幸いにもカンザスが勝つて、ジョン君も大喜び。アメリカ人の親切さの底が知れないと重ね重ね感じたものだ。

六月二十七日（月） 加藤が約束を取ってくれていたルビンスが車で迎えに来てくれた。久野さんは、いくらアメリカが広いといっても、あんな大きな冷蔵庫はそんなに幾つもあるものでない。きっと昨日の所に連れて行くだろうと心配していたら、心配無用、ぜんぜん別の所で、例の大牧場を横切り、別の冷蔵庫に連れて行ってくれた。ルビンスも声のかん高い

元気のよい男。牧場が見たいといったら、牧場から屠殺場、肉の冷凍施設を見せてくれた。そして、食糧にしても、資材にしても膨大なストックがあり、アメリカの大きさに圧倒された。まあ、よくもこんな国に戦いを挑んだものだと、当時の日本人の無謀さに呆れてしまった。

私たちも「いま、天然ガスの輸入によって冷熱利用による食糧備蓄をやりたいから、指導してくれ」と言ったら、「農林省を通して申し込め。いつでも行ってやるから」ということで別れた。パーケ親子の特別な飛び入りがあり、楽しいアメリカ視察に花を添えることができたし、思わぬ知己ができて、これからが楽しみだ。

八十一歳の大先輩、ロスの加古さん

六月二十八日（火） フライトの都合で、デンバー、ソルトレークを経て、ロスアンゼルスに降りた。これからフーバーダム、インペリアル平原の畑地灌漑を見る予定である。

ロスには、八幡の同志加古文雄の長兄、加古亮三さんがいる。安城農林学校の第二回の卒業生で、山崎先生の直弟子。大正のはじめに農業移民として渡米して、今ではアメリカ国籍をもち、今年八十一歳というのかくしゃくとしておられる。わざわざロス空港まで家用車を出迎えを受けた。ロスのホテルまで送って下さり、久闊を述べ、チェックインして日本料理店に案内して下さいました。山崎先生を心から崇拜しておられ、翌六月二十九日（水）には、ホテルまで出迎えを受け、ロスアンゼルス郊外の農業、えんえんと続く野菜畑、オレンジ畑の灌漑状態を見せていただき、また、デイズニーランドを見せてもらった。心ゆくまでアメリカの畑地灌漑地帯を見せてもらった。安城農林の二回といえば、私と三十年の年の開きが

ある。自宅につれて行っていただいてアメリカ生活の三十年の話をゆっくりとお聞きした。ご子息は大学の建築関係の教授をしておられるとのこと、すっかりアメリカ人になっておられる。

六月三十日（木） 私達だけでフーバーダムの見学。二三〇メートルというアーチダムの壯觀に心を打たれ、グランドキャニオンの絶景に見とれるばかり。夜はラスベガスの賭博場とフランスの裸ショーに驚いて、ホテルに退散。

七月一日（金） 空からのグランドキャニオン、フーバーダムの絶景を愛でつつ、ロスに還る。

七月二日（土） 加古さんに空港まで送られ、感謝の別れを告げ、一路ホノルルに向かった。

七月三日（日） オアフ島の一日観光バスで島一巡。オアフ島は太平洋の楽園、ホノルル湾内には、昭和十六年十二月八日に日本の空軍の急襲を受け撃沈された軍艦がそのまま残っている。「リメンバールパールハーバー」はまだ生きている。

七月四日（月） 車を頼んで、パインアプルの畑と加工場、砂糖黍畑と製糖工場の見学。愛知用水地域も、水が来たから、大温室を造ってトロピカルフルーツ観光園を作るも一案。夜はホノルルから出る夜の観光船で月を愛でつつ湾内の観光。船内でたどたどしい英語で会話し、美しい女の子と友達となる。日本に帰ってから、二、三回文通した。もちろん、カンザスのジョン君とも一年くらい文通した。彼は日本に来ると言ったが、忘れてしまった。

七月五日（火） 一日休養日。ホテルからダイヤモンドピークの見える所まで散歩に出た。海は海水浴客で一杯。泳ぐ気にもなれず、暑い陽を浴びて汗だけで部屋に帰る。別に土産物を買うわけでもなく、翌日のフライトを待つ。

正午頃のフライト（ノースウエスト）。ハワイとも別れる。途中、日付変更線で日付が変わ

る。夕刻、富士の残照が美しかった。

帰国後、まず始めたのは、農産物の冷凍貯蔵流通をシステム化する計画で、加藤照千代農業協同組合中央会会長に持ち込んだ。

そこで若い時、八幡農業会で技術員をしていた宮川清が農業協同組合中央会の専務をしていたので都合がよく、話が早かった。

東京に出て、農林省の加藤泰丸、NHK農事番組の霞堂宣夫（愛知県岡崎の出身）と彼の朋輩二人ほどが加わり、愛知海運の推進者宮下特五郎等を加えて、久野、浜島でコールドチェーンの核を作った。これをそのまま名古屋に持って来て、加藤乙三郎（中電会長）、菰田東邦ガス社長（のち志水定彦）などの協力を得て、地元議員早川三郎の協力があり、不老会、冷熱利用協会、愛知海運の事務を合同で始めた。

臨海工業地帯も埋め立てが進み、埋立地の三、四区に中電、東邦ガスが配置され、結束が固くなってきた。これを三四会と言った。

そのうちに霞堂も名古屋に来ることになって、一層、コールドチェーンの組織が固まり、名古屋商工会議所に事務所を持つことになった。

3 社団法人愛知県冷熱利用協会の発足

アメリカ視察で大きい期待をかけていたのは、愛知用水により増産することは間違いないが、これによって増産した結果、農家が豊作貧乏にならないように、農産物の備蓄、貯蔵のできる設備、組織を造りたいということだった。農林省経済局の加藤泰丸からアメリカのコ

ールドチェーンシステムを見てこなければとすめられて、アメリカ視察が始まったのである。そこで、早い機会に加藤泰丸の意見を聞きたいと思って彼に連絡すると、関係者を集めて推進方法の話し合いをしようということになり、久野、浜島の二人で上京した。かねてからNHKの農事番組で御世話になっていた霞堂はその面について加藤と知り合っていたので、NHKの一室をお借りして、前記加藤、宮下特五郎などにも集まってもらい、日本のコールドチェーンの在り方について討論した。

名古屋臨海工業地帯の一番先に東邦ガスが立地して、LNG輸入をする。LNGはインドネシアのブルネーにおいて、高圧、マイナス一六二度の低温によって液化して体積を小さくして、特殊タンカーで輸入して、解凍して常温に戻し、メタンガスとしてパイプによって配布するシステムになっている。このマイナス一六二度の冷熱を利用して冷凍産業に利用する。もちろん農産物の冷凍貯蔵することも容易である。そこで、冷熱を利用する研究をする必要が生じる。これは、東邦ガス、中電、出光の油送技術や、ドライアイス等の研究をする必要のある会社が集まって社団法人冷熱利用協会を設立することに一致した。

その後、間もなく霞堂もNHKを退職し、愛知農業協同組合の加藤照千代を会長とした愛知冷熱利用協会が生まれた。さしあたっては、不老会事務所と同居し、本部を寺本の愛水館に置き、早川三郎を中心に活動が開始された。

その発足当初の役員は次の通りであった。

一、設立総会 昭和五十二年六月二日

一、設立許可 昭和五十二年七月八日（愛知県）

一、役員 理事 一〇名 幹事 一名

会長 加藤照千代 愛知県農業協同組合中央会会長

副会長 鈴木 俊雄 中部経済連合会会長

副会長 長木 一 愛知県議会議員

専務理事 久野庄太郎 愛知用水発起人

理事 原田 義久 名古屋商工会議所専務理事

理事 三宅 重光 東海銀行会長

理事 岩田惣太郎 中部経済連合会専務理事

理事 宮川 清 愛知県農協中央会常務理事

理事 杉本 嘉範 愛知県食肉事業協同組合会長

理事 城山 桃夫 愛知冷熱利用研究会

幹事 安藤 梅吉 愛知県商工会連合会長

一、事務局長 早川三郎 (設立昭和五二年八月)

一、会員 (賛助会員含む) 法人一六名 個人九名

4 海外開発の技術協力

考えてみれば、アメリカ一巡旅行、三人二十五日で五〇〇万円は下らぬ金を投入して、これからの活動に資するに、何から始めるべきか。

まず第一に役立ったのは、

一、愛知用水で培った技術の集団(株)三祐コンサルタンツに役立てるべきである。世銀の総裁ブラックスが「君達も相当の技術と資金を身につけたのであるから、この技術を使って、アジア開発銀行 ADB の一員として最大の投資をしている日本の力を借りて中近東、東南アジアの開発に参加すべきである」そのために世銀ブラックス総裁は、ADB の渡辺総裁を紹介してくれた。しかし、渡辺総裁は日本の代表であり、すでに十分連絡がついており、東大の福田仁志先生から紹介を受けている。最初のプロジェクトとして、インドネシアのジャワ島の東端ブラントス川の灌漑地区のリハビリテーションに参加した。

これは、ジャワ島の東端スラバヤ市を含むブラントス川の灌漑地区が老朽化して、オランダが施工したゴロンガンシステムがうまく稼働していないため、取入口から各分水点に至る老朽水路をリハビリすると同時にクロピングパターンを再検討するプロジェクトで、戦前から独立戦争に功績のあった常枝さんが中に入ってうまく運営できるように計画実施した。

次にタイ国の RID の圃場整備計画と営農、灌漑組織計画の技術援助で、農業協同組合と灌漑計画を組み合わせて、合理的な事業負担金の徴収、営農指導のできる組織化と圃場整備を実施した。引き続き、アユタヤの南のラブラロン地域のダイクによる洪水防御計画を始めとして全国的に大プロジェクトを受けて今日に至っている。

しかし何と云っても、最初に手がけたイランのガズビン計画の成功が大きい。

ガズビンは首都テヘランの南西に広がる土漠地帯で、年間の降雨量は四〇〇ミリ以下。遠くエルブレス山脈に積もった雪の水が地下に滲みて、地下水になっているのを、三〇メートルくらいの井戸を一〇〇メートルごとに掘って、これを横に地下で繋ぎ、何十キロと持つて行って地上に出たところがオアシスで、これが砂漠に住む人たちの拠点となっている。これ



イランでのプロジェクトで活躍。左から2人目が浜島

をカナートと言って千年以上昔から、このカナートで水を得て生活している地域である。

これをエルブレス山脈（二〇三、〇〇〇メートル、最高五、六七メートル）裏側に降った雪が溶けて、カスピ海（海水面下二五メートル）に流れるタレガン河（トルコから流れてくる河と合してセフェード河とし、カスピ海に入る）がある。

このタレガン河を堰き止めてダムを作り、エルブレス山脈を一〇キロメートル、トンネルで抜け、ガズビン平原に水路で流し、灌漑してテヘランの食料を供給する計画設計である。

これを三祐が受け持ち、工事はドイツのルフトハンザが実施した。最初に極東オリソピックがテヘランで行われたとき、この水がプールとして役に立ったことで有名である。それ以後、この水がガズビン平原の農家の水源となって、テヘランの食料を供給していた。後年、イランとイラクがチグリス・ユーフラテスの河心の移動で国境問題が起こり、戦争になった時、空軍の優勢なイラクの爆撃でテヘランが壊滅状態になったが、ガズビンの食料の供給で負けなかったという話が残っている。大切な役目を果たしたわけである。その後、ホメイニの時代になっても、引き続き三祐コンサルタンツが、イランの開発を受注している。

同じ頃、韓国の南西部光州平原、榮山江計画に始まった韓国の開発に貢献したのも大きい。一九五三年頃、朝鮮戦争終結当時の韓国大統領は李承晩であった。復興の世銀プロジェクト

トして榮山江の開発計画が計画段階からの発注があった。計画は全羅南道の光州を中心とする榮山江平原の総合計画で、計画設計は三祐が落札した。

榮山江の上流は光州平原で、三五、〇〇〇ヘクタールの水田地帯であり、この水源確保と耕地整備、木浦湾の逆潮樋門の建設と干拓計画である。三祐は、川合尚が計画樹立に当たり、光州平原の水源としては上流に長城^{チャンソン}はじめ四つのダムを建設、一部、洛東江の流域変更をして四ダムを連繋して用水を確保、光州平原に水路で繋ぎ、余水を木浦湾に注いで全羅南道を総合的に開発した。稲の品種も早生種の早植えによる裏作を考えた計画で、計画完成後、全羅南道の経済力が高まり、いままでなかった西海岸出の金大中大統領出現の源をつくった。

また、引き続き韓国農業振興公社（ADC）の信頼を得て、挿橋川の計画、臨津江、洛東江などの計画を受けて、セマール運動の基盤を築き、今まで晩生種の増産に力を入れていたものを、水原の試験場の殷辰雄博士^{インジンウ}などと協力、早生種の早植えを導入して功績をあげた。また、遠くアフリカ西海岸の開発にも参加、大きく世界の農業開発に貢献した。

- 一、昭和三十六年六月二十五日 愛知用水完工式
 - 十一月三十日 同祝賀式 愛知文化講堂
 - 二、昭和三十六年十二月十七日 吉田元総理が東郷池完工式に来名
 - 三、昭和三十七年八月二十四日 農林省、公団、県、農民負担金の返還基本方針決定
 - 四、昭和三十七年十二月二十七日 愛知用水建設負担金並びに昭和三十七年災害の復旧費を愛知入鹿、可児、土地改良区に賦課される。
 - 五、昭和三十九年十二月二十七日 公団より改良区に負担金 面積 二一、六六九・五ヘクタール 五十八億八千万円 反当 二万七千百三十五円
 - 六、昭和四十年四月五日 反当 千円宛て徴収可決
 - 七、昭和四十年四月二十四日 久野源蔵死去。町葬に列席
 - 八、佐布里池完成 昭和四十年五月一日 これ以て臨海工業地域の水の心配はなくなった。
 - 九、昭和四十二年四月 大規模圃場整備計画発足 機械化、共同化のために三反区画、三重県勝田方式（玉城町長山口義臣は浜島の同級生で世話になった）
 - 十、景気高度成長（神武景気）
 - 十一、久野庄太郎、浜島辰雄、アメリカ一巡見学、昭和四十一年六月十二日～七月六日
 - 十二、愛知用水建設負担金完納。昭和六十年二月二十八日。
- 最後は公団土地改良区任せであったが、何となくほっとした。